

授業概要

科目名	高次脳機能障害学Ⅲ					授業の種類	演習	講師名				
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	2年	後期
【授業の目的・ねらい】 高次脳機能障害について総合的に理解し、国家試験に対応した問題が解けるようになる												
【実務者経験】 須崎くろしお病院にて、言語聴覚士として成人・小児分野の言語治療に従事。												
【授業全体の内容の概要】 言語聴覚士が高次脳機能障害に行う、評価からリハビリまでの知識を関連付けて考え、技術を修得する 国家試験に対応した問題を解き、解説できるようになる												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 高次脳機能障害について総合的に理解し、国家試験に合格できる程度の問題を解くこと、またその問題について適切な解釈ができるようになる												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	神経心理学の基本概念について理解できる											
2	背景症状について理解できる（意識障害、見当識障害、感情障害など）											
3	注意障害について理解し、問題を解くことができる											
4	記憶障害について理解し、問題を解くことができる											
5	失認について理解し、問題を解くことができる											
6	視空間障害について理解し、問題を解くことができる											
7	動作・行為障害について理解し、問題を解くことができる											
8	前頭葉症状について理解し、問題を解くことができる											
9	半球離断症候群について理解し、問題を解くことができる											
10	認知症を呈する疾患の高次脳機能障害について理解し、問題を解くことができる											
11	外傷性脳損傷の高次脳障害について理解し、問題を解くことができる											
12	評価法について理解し、問題を解くことができる											
13	訓練・援助についての基本原則について理解し、問題を解くことができる											
14	訓練方法について理解し、問題を解くことができる											
15	チームアプローチについて理解し、問題を解くことができる											
	定期試験											
【使用教科書・教材・参考書】 高次脳機能障害ポケットマニュアル 第3版												
【準備学習・時間外学習】 授業で行う内容の予習・復習を行ってください。												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】												
試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。												